

第1回横幹連合コンファレンス
知の活用セッション・パネル討論

「共生コミュニケーション支援」はどうあるべきか

日時：2005年11月26日（土）16:30～18:00

場所：JA 長野県ビル コンファレンス会場 12階 第B室

人間社会において人工物の広い利用により、利便性、豊かさ、快、癒し、治癒など「善」の提供が行われる一方、人工物が複雑化し使えないとか、あるいは人工物が多量に使われることによる資源の枯渇、環境破壊、精神的ストレス、孤立感、危険性増大など個人や社会にとっての「悪」の増加が問題となってきています。

ここには、人工物による「悪」を最小にしたうえで、個人、組織、社会が多くの「善」を享受しながら人工物と共生していくために、人と人工物の関係はどうあるべきかという大きなテーマが存在します。

本パネルでは、その中でも主として、人と人工物の一種である機械とのコミュニケーションに重点を置いて、「悪」の問題を最小限に抑え、機械と人とが共存して行くために、人と機械、機械を介しての人と人との「コミュニケーションのあり方と支援の方法」について異なった分野の方々による討論を行います。

パネリスト

新井民夫氏（東京大学：サービス工学）

河口洋一郎氏（東京大学：コンピュータアート）

伊福部達氏（東京大学：福祉工学）

大倉典子氏（芝浦工業大学：インタフェース）

渡邊克己氏（産業技術総合技術研究所：認知科学）

山田陽滋氏（産業技術総合技術研究所：ロボット工学）

司会 井越昌紀氏（東京都立大学）